

木曽馬に守られてきた 開田高原 その③

さよなら 第三春山号

白黒の写真「木曽馬とともに」
イラスト「木曽馬物語」

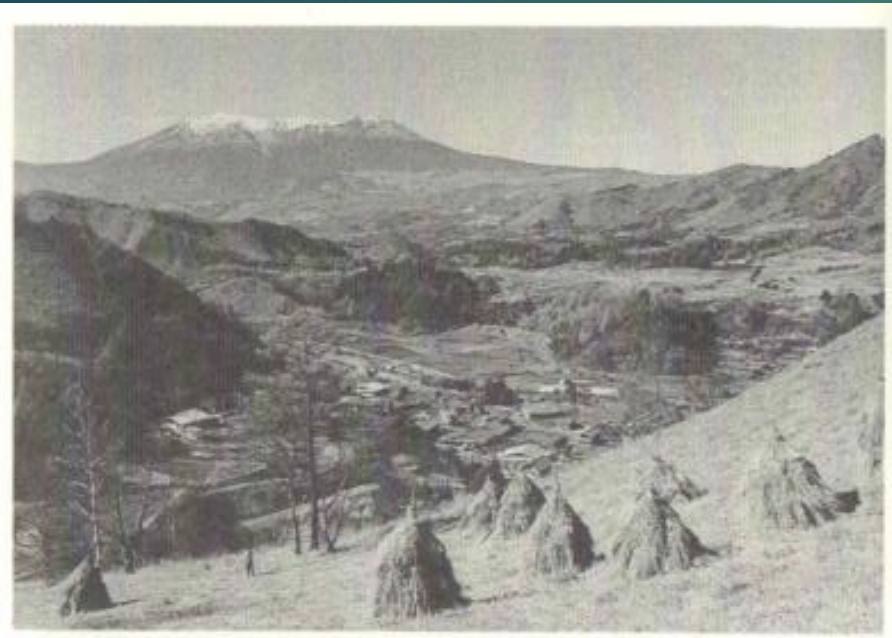
伊藤正起
絵：まえだかちこ

1 0 3 1 校長講話

前回までのお話し



放牧されていた木曽馬



草刈り場の斜面に二ゴ



昭和の初めごろまでは、この辺りは一面木曽馬のえさとなる草刈り場で、夏は、たくさんの木曽馬が放牧されていました。秋になると草原の草を刈り、刈った草は「にご」という草束を作って干し、冬ごもりの馬の餌となりました。開田高原には馬を引くときの歌（馬子唄）や草刈りの時に歌った民謡があります。

第三春山号のはくせいを見たこと
ありますか？



1975年1月 25歳の
おすの木曽馬が、その生き
ている姿をとどめるために
はく製にされ、この世を去
りました。
名前は「第三春山号（だい
さんはるやまごう）」 以
下 春山号と呼びます。
開田小学校のとなりの柘植
（つげ）さんが飼っていた、
おとなしくてよく働いてく
れた馬でした。

（木曽町HP 開田郷土館）

減ってしまった木曽馬

長い間、開田高原は、たくさんの方が木曽馬を飼うことで暮らしを立ててきました。木曽馬を飼うことで、開田高原独特の自然や風景、文化ができました。

しかし、木曽馬は戦争中に大変ひどい目に合いました。普通の馬より体が小さく、戦争に不向きだったことから、国は昭和14年に、木曽馬を増やしてはいけない法律（「軍馬統制法」）をつくり、昭和18年には純粋な木曽馬の雌（めす）はいなくなっていました。



一般的なサラブレッド 東京サラブレッドクラブ公式HP



足と首が短く 背が低い 顔が大きい ずいぶん違いますね

農業の機械化が木曽馬を減らした

春山号が生まれる前の前のお話し

木曽馬は、長い間、農耕馬（のうこうば）としても活躍してきました。開田小学校では、ずっと馬耕を体験しています。そんな木曽馬ですが、1960年ごろから、耕運機や稲刈り機が導入され、木曽馬を飼う人も急激に減りました。

戦争が終わるとますます木曽馬は増えることがなく、昭和24年には、木曽馬のおす馬はついにいなくなっていました。

昭和24年（1949年）

木曽馬本登録

めす馬 8頭 おす馬 0頭



千曲市の 武水分神社からお すの木曽馬をゆずりうける



昭和25年、長野県更埴市（今の千曲市）の八幡の武水別神社（たけみずわけじんじゃ）に

木曽馬のおす 神明号（しんめいごう）12歳が御神馬（かみさまの使いとしての馬）として生きていることをしり、木曽馬を復元するためにならと、木曽馬を保存したいと考えていた人々にくれることになりました。

新開村の鹿山（かやま）号

21歳を母に、

神明号を父に生まれたのが、

第3春山号である。

千曲市の武水別神社
ごしんば しんめいごう
の御神馬 神明号
オス 12 さい

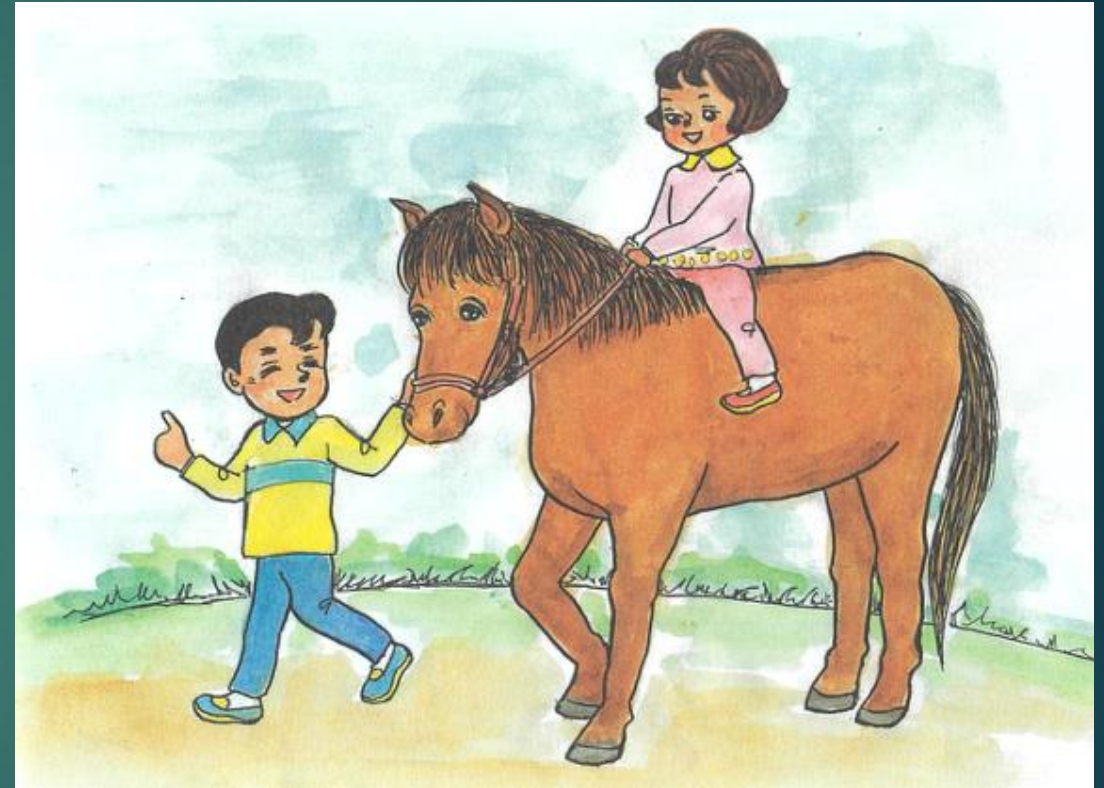
木曽谷 新開にいた
かやまごう
鹿山号
メス 21 さい

第三春山号

昭和26年4月8日生まれ

春山号のおかげで少しずつ木曽馬が増え始めた

- ▶ 第3春山号は、奈川村の古畑庄市さんが7年飼育、その後、木祖村の青木さんの家で飼われ、昭和37年 開田村の村長 伊藤正起さんが村で飼うことを提案、坂口末吉さん（坂口先生の祖父）の家で育てられるようになりました。坂口末吉さんが病気で倒れ、開田小学校のとなりの柘植清一さん（今住んでいる柘植さんの祖父）が飼育をすることになりました。
- ▶ 坂口先生が高校3年生まで坂口家で飼われていたそうです。
- ▶ 春山号は、温厚で小学生がよく馬小屋にやってきましたり、小学校の近くを春山号が歩くのを小学生と一緒に歩いたりしたそうです。



柘植さんの孫の将平ちゃんとゆりちゃんと遊ぶ
春山号 （『木曽馬物語』より）

春山号のおかげで少しずつ木曽馬が増え始めた

昭和50年頃

第三春山号を 父、祖父、曾祖父などに持つ
木曽馬は53頭にまでなりました。



第三春山号（明18才）と筆者

18歳のころの春山号と
当時の開田村長
伊藤正起さん

春山号がどんな馬だった
か、坂口先生にお話をお
聴きします。

第三春山号をはく製に??



・第三春山号は25歳になりました。25歳という年齢は人間に例えると90歳をはるかに超える年齢です。その上、春山号は体の調子が悪く、もう長く生きられないことがわかりました。

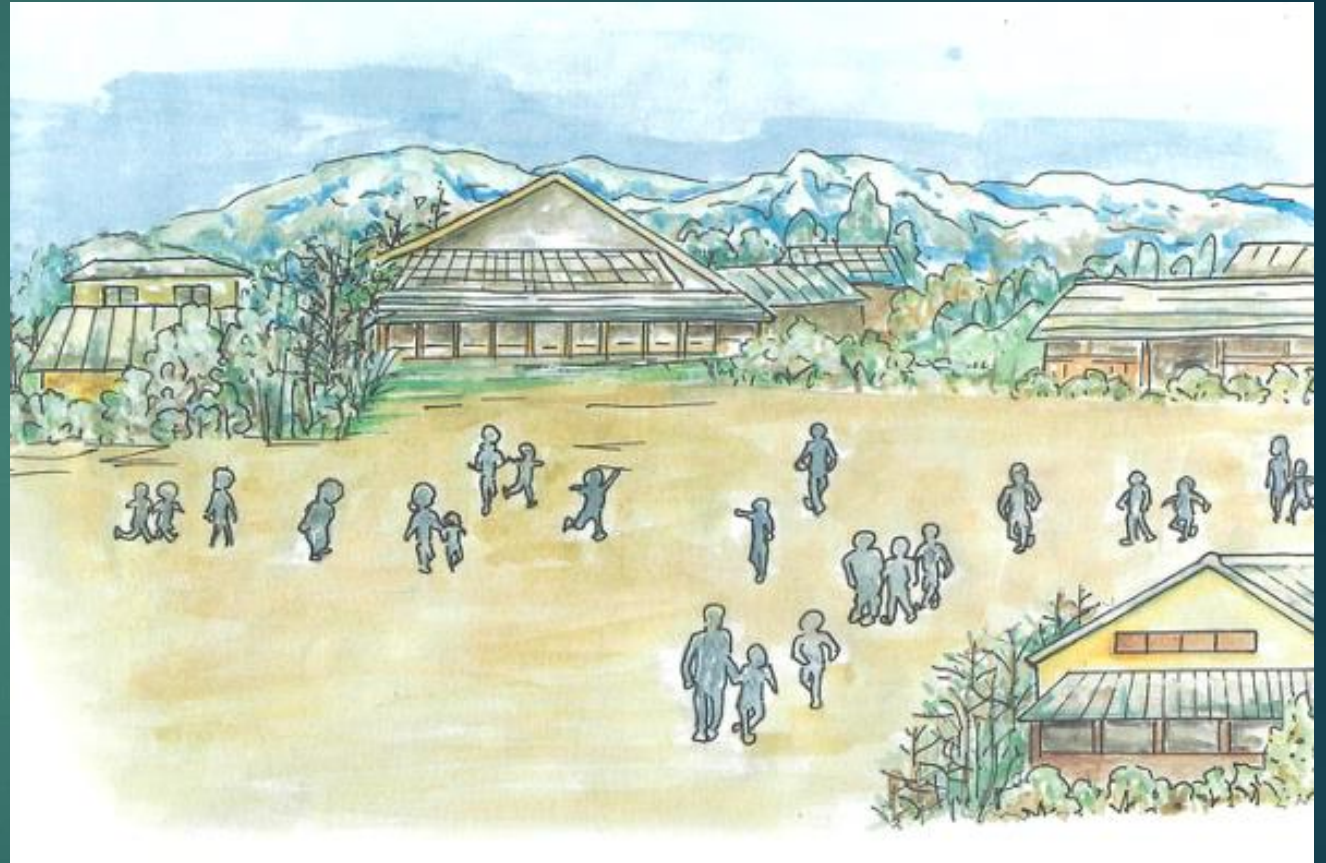
・木曽馬保存会の人々は、大学の先生の意見をきいて、このまま死んでしまったら春山号は埋められるしかなく、やがて姿も形もなくなり人々から忘れられてしまう。しかし、はく製にしてもらえばほとんど生きたままの姿でみんなに見てもらえることができるだろう。はく製にしたらどうかと考えました。

・柘植さんは迷いましたが、将平くんやよしこちゃんに春山号をはく製にすることをゆるしてほしいと頼みました。

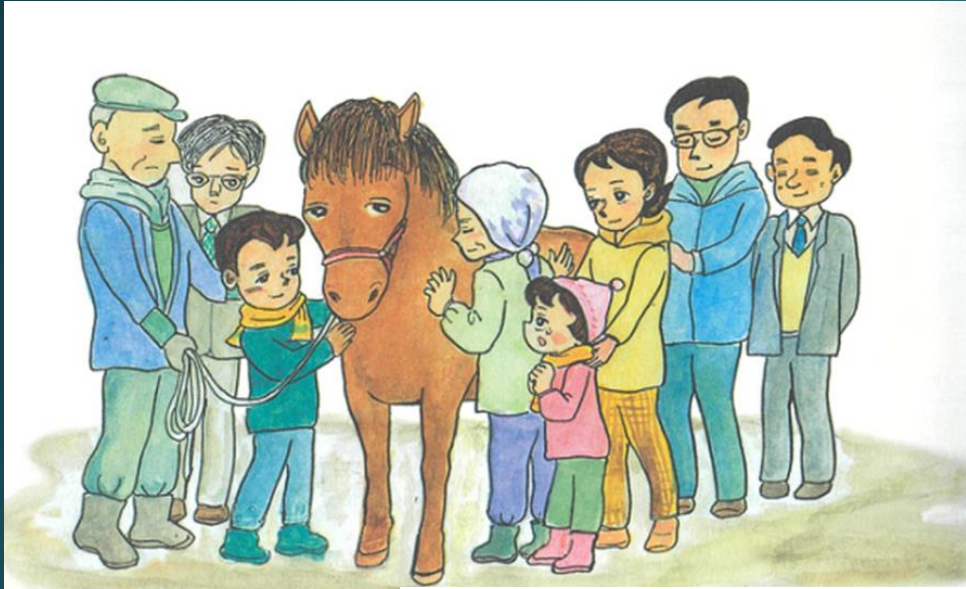
さよなら 第三春山号

・ 柘植さんと開田小学校はとなりどうしだったため、小学生と春山号はいつも仲よく遊んでいました。将平くんやよしこちゃん泣いて反対しましたが、結局は春山号を名古屋大学に行かせることを承知しました。

・ 別れるときが近づいてきました。トラックがやってきて、村長さんや獣医さん、木曽馬保存会の人々と、小学生、村人が春山号を見送りに集まりました。



さよなら 第三春山号



この時の様子を絵本「木曾馬物語」から読んでみます。

「開田馬子唄」

柘植さんが「開田馬子唄」を歌いだしました。それらにつられて、みんなも歌いました。春山号とのお別れに、将平くんやよしこちゃんはもちろんたくさん子どもたちや村人が涙を流しました。春山号は足を踏ん張ってトラックに乗ろうとしませんでした。将平くんがトラックの荷台に乗って呼ぶとそれに応えるようにトラックの荷台にのったそうです。

○鳥もかよわぬ 奥山なれど

やがて春が来て 花も咲くよ

○三里笹山 二里松林

主さんよくきた 五里の道

○送りましょか 送られましょか

せめてとうげの茶屋までも



やがて、トラックの荷台のうしろから、ふみ板が地面におろされました。柘植さんが春山号の手綱を引っ張って、ふみ板のどこまでいきましたが、春山号はいやがって、前へ進もうとしません。柘植さんが、なおも強く引っ張りましたが、どうしてもふみ板を登ろうとはしないのです。



開田馬子唄（かいだまごうた）



第三春山号がはく製になって帰ってきてから1年後1976年開田郷土館ができました。第三春山号の姿を私たちが見ることができるのは、こんなお話が合ったからです。



公式HPより